

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272100268		
法人名	堀建設株式会社		
事業所名	グループホーム 悠心彩 (ひのき棟)		
所在地	島根県鹿足郡津和野町河村506-3		
自己評価作成日	令和3年2月9日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和3年2月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍でご家族様と面会ができない中で、気分転換ができるように積極的にドライブや行事を計画し、会話や笑顔を引き出せるように取り組んでいる。弁当を作って外出先で食べたり、牧場で動物とのふれあいやりんご狩りに出掛けた。また、故郷訪問やお墓参りなど入居者様の意向も取り入れた個別の支援も行っている。大型車の導入により重度になっても、季節を感じたり、馴染みの場所へ外出して笑顔を引き出せるように努めている。  
タブレット端末での記録は、必要に応じて写真を添付しており、状況を分かり易く共有でき、職員同士が情報を共有しながらケアの統一に取り組んでいる。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ対策委員会を作り諸問題の対応に当たり検討しサービスの低下にならないよう取り組んでいる。外出自粛ではあるが対策をきちんと立て利用者の声を聴いて遠足に出かけたり、個別対応のドライブで季節や馴染みの関係を感じてもらおう努めている。事業所内での行事が少しでも利用者の気持ちをやかにするように、運動会や夏祭り、ソーメン流し、花火大会など工夫して行っている。ケアにもタブレット端末を使用することで記録、保存、共有、活用など時短に結びつき、職員は利用者と過ごす時間が増えることでより良い支援となりサービスの向上に繋がっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールのいつも目に入る場所に掲示している。	年度初めに説明し、目につくところに掲示して意識を共有している。職員は利用者に寄り添い傾聴し、その人らしく過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、外部との交流は控えている。面会制限はある。	コロナ禍で交流はあまりできなかったが、花火大会ではボランティアに竹灯籠を作ってもらうなど協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通信などを発送し地域の人々に知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開催していたがコロナ禍のため開催はせず書面にて報告している。	書面で報告し、家族、町、自治会長からの意見や助言をサービスに反映させている。今後、質問項目を工夫し、多くの意見が聞けるように様式を検討したいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話にて連絡や相談をしている。	運営推進会議の開催について相談したり、必要があれば電話だけでなく直接出向いて情報交換をし協力して取り組んでいる。マスク不足で相談をし支援をもらった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	なぜ身体拘束を行わない事が重要なのか研修をし、身体拘束の理解を深めている。	定期的に委員会を開催しスタッフ会議での気づきの中から身体拘束の原因や要因、また虐待などへの関連性を研修している。運営推進会議で報告をし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と一緒に虐待についても研修をし理解を深めている。言葉遣いについても気をつけるように意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議にて研修を行っている。日常生活自立支援事業、対象者1名 担当者との連絡も密にでき支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明には充分時間をとっている。家族等の不安や疑問点にも対応出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者により電話による意見、希望の収集に努めている。家族会にて意見交換をし検討している。R2は中止になった為アンケートを実施した。意見箱の設置があり。	電話での聞き取りやアンケートを実施した。コロナ禍の中で面会を制限しているが、要望があれば状況を見ながらガラス越しでの面会ができる様に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、管理者会議が意見や提案を聞く機会になっている。スタッフからの意見は言いたいことカードにより代表者に直接伝える事ができる。	日頃より何でも話し合える職場づくりを心がけ、代表者へも意見を伝えている。スタッフ会議でボイスレコーダーを利用するようになり記録に集中することなく皆が意見を言いやすくなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ会議の出席、研修参加など細かな実績なども給与に反映されているため向上心を持つことができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の中で中止になった研修も多かった。 ・実践者研修 ・地域における防災研修への参加等可能な研修へは参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の管理者の集いやグループホーム交流会が行われるがコロナ禍のため実施されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前から本人の生活歴等の情報を得たり事前に面接をし、入居後には困っている事や不安がないか要望を聞き安心して暮らせるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前より家族と話をする機会を作り要望や意見をお互いに相談し合える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の様子を家族や外部機関からの情報を得ながら支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事は行ってもらう等役割を持って生活して頂き、共に生活している家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に1回近況を伝える手紙以外にも、本人の状況を報告し相談しあいながら本人と一緒に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りに行きたいとの要望で故郷訪問へ出掛けている。	現在面会制限のため外部接触は控えているが、墓参り、故郷訪問、自宅立寄りのドライブなどの支援をしている。家族から栗の渋皮煮や菓子などの馴染みの差し入れもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話ができるようホールで座る位置を変えたり職員も間に入り会話ができるように工夫している。一緒に楽しめるようレクリエーションも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域性を活かし、普段の生活の中で接点があればフォローやアドバイスなどネットワークの活用も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに向き合い希望や意向の把握に努めている。(自宅訪問・墓参りの援助。家事・趣味など得意なことに主体的に関って頂く働きかけ)	日々の生活の中から思いを把握しプランに組み込み支援している。困難な場合は目を合わせて笑顔で接し動きや表情から推測して少しでもその人にあう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報の収集。日常のレクリエーションや日常会話の中からも馴染みの暮らし方や個性を汲み取れるよう回想に働きかけをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活リズムを把握し午後からの過ごし方の工夫や声の掛け方にも注意し心身の安定と夜間の安眠に繋げる働きかけを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を優先しながらも現状に即し、また生活の向上が図れるよう家族・関係者と連携しバランスの取れた計画を探求している。	毎月、利用者、家族の希望を聞きながら現状に即した支援ができるように介護計画を作成している。できることや得意なことを援助内容に挙げ支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録から情報を得ながら公平な立場で判断出来るよう活用している。細やかな対応では、より実践的な言葉や話し方を参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況に応じたケアの提供、必要な受診の補助、看取りケアなど柔軟な対応に取り組んでいる。ユニットや他事業を超えた交流や馴染みの方との語らいを積極的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、本年度の地域交流は行えていないが、作品等で楽しめる環境をつくり支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の状態を記録し、その都度看護師へ報告している。何かあればすぐに看護師より医師に相談し対応して頂いている。	本人、家族の希望のかかりつけ医を継続している。月1回定期受診を支援している。家族が同行する場合は情報提供書を渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状態を把握し、小さな変化でもすぐ対応できるように朝カンファレンス等で状態報告を行い、気にかかる事は随時看護師へ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者が適切な医療・看護を受けられるよう必要適切な情報提供に努めている。利用者の入院中は状況を確認すると共に病院関係者からも状況や経過を聞き情報を共有しながら帰所後の適切なケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者と家族の意向を確認し、その後も必要時に話し合い再確認している。事業所で出来る限りの対応に努めるとともに限界についても十分に説明をし納得して頂けるよう努めている。医師・看護師も含め方針を共有できるように努めている。	事業所の方針を伝え利用者、家族が納得した支援となるように取り組んでいる。重度になっても安心して過ごせるように音楽を流したり他の利用者と同じ空間で過ごせるようにしたり家族と過ごせるようにするなど配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が予想される場合の対応や事故発生時についての話し合いは行っているが本年度コロナ禍の為研修や訓練は行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に迅速適切な行動がとれるよう利用者と共に年2回防災避難訓練を実施している。地域との合同防災訓練はコロナ禍の為、本年度は実施できていないが災害時緊急連絡網へ近隣協力者の連絡先を記載し地域との協力体制を築いている。	風水害、火災などの災害に対して定期的に訓練を実施し、研修では大雨に備え避難行動の確認や非常持ち出し品について確認している。情報収集や連絡、報告など日頃から意識し取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した言葉の声掛けを心掛けて丁寧に対応するように気をつけている。	人格を尊重した言葉使いや利用者のペースでの生活を心がけている。入浴や排泄時は羞恥心やプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し日常生活での本人の思い等を聞き自己決定ができるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で利用者のペースで個人の希望に添った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面や整容、その日に着る服選びなど自分でできることはしてもらい出来ないところは支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きをして貰ったり、食後の片付けを利用者と一緒に行っている。	行事や季節ごとにメニューを工夫し見た目も楽しめるようにしている。利用者は片づけなどできることを行い、おはぎやカレーライスなど一緒に楽しみながらつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録をし、個人に合わせて調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛けや見守りをしながら口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握をして声掛けやトイレ誘導をしている。	排泄状況を職員間で共有し支援している。夜間も利用者の希望に添って誘導、介助し、重度の人も定時に誘導の声掛けをしながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を確認し、必要ならばNSに相談して下剤等を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回、体調や本人の希望を聞いて入浴するようにしている。	希望の時間に入浴してもらっている。毎日でも希望があれば対応する体制はある。今のところ夜間希望者はいない。状況によっては無理強いせず柔軟に対応しながら支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールで過ごす方や居室で好きなテレビを観て過ごす方もいて個々に任せている。定期的なりネン類の交換を行い、居室内の安全点検も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴も確認しながら把握に努めている。用量や薬の変更があった場合は看護師に様子を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みや新聞折り、生け花・折り紙を折るなど利用者の力や思いに沿った支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺を歩いたり、弁当やおやつを持って遠足に行った。りんご狩りに行って家族にお土産のりんごを買って渡された方もいる。	現在、外部の人との交流や外出先も制限されているが、散歩やドライブ、花見、リンゴ狩りの遠足、戸外での食事やお茶会など、利用者の気分転換になる外出支援に努めている。大型車の導入により車いすの人も出やすくなった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失や取られたと不穩になる為お金は所持していない。職員と好みの菓子や野菜等の買い物に行ったり、移動販売車のパンを買ったりしてお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話帳で自宅の電話番号を探したい方に電話帳を提供している。葉書に俳句を書いて送る方がいる。文字を書くことが苦手な方に塗り絵や習字をしてもらい名前が書けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに入居者と一緒に花を生けて飾ったり、季節の壁画を月ごとに作り飾っている。換気や加湿器を利用して心地よく過ごせる様に工夫している。	現在、食事と活動する場所を分けている。ソファやいすでテレビを見たり、テーブルでは好きなぬり絵や貼り絵ができるスペースをつくり、ゆっくりと自分の時間を確保する居場所もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたり、ホールのソファや陽当たりの良い窓辺に椅子を置き、利用者同士がゆっくり話ができる居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや家具の配置は本人や家族と相談し、使い慣れた小物入れ等も手の届き易い場所に置き、居心地の良い居室になるように工夫している。	壁面には家族の写真や自分の作品を飾り、好きな歌手のポスターを貼っている人もいる。暮らしやすいように家具や小物の配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが設置しており、他の棟に安全に移動ができる。洗濯物を畳んでもらいながら自分の物と認識できるように声掛けをしている。		